

「3年目の社会人なりの考察」

近畿日本鉄道株式会社 (H15) 大谷 修平

大方の人より長きに渡った学生生活に別れを告げて現在の会社に就職し、社会人と呼ばれるようになって3年目となります。

正直なところ、地球工学科に入学した時点においては現在のような仕事をしたいという意志があったわけではありませんでした。むしろ、高校時代に好きだった化学系（環境工学コース）に進み、環境に負荷の少ない材料の開発をしてみたいという思いでいました。しかし、いざコース選択というときに（取得単位数や成績に問題があったのもありますが）ガイダンスで教官の方がおっしゃった「一番就職に有利なのは土木」という一言にコロッと思いを翻し、土木への道を進み始めました。当時の就職氷河期と呼ばれた世相が大いに影響したものと思われまます。当時の考えは、「①せっかく学んだことを全て無にしてしまうのはさすがにどうか？②できるだけ海外勤務のないところで働きたい。」という極めて後ろ向きなものでした。何とか大学院に進み、そろそろ就職というものを…と考えた頃、ようやくおぼろげながら「まちづくり」というものを作りたいという目指す方向性がまとまり、先に挙げた①②も満たすディベロッパー・鉄道という部門に絞り就職活動を行いました。幸い、現在の会社に縁あって就職することとなり今に至ります。



新入社員研修後の2年弱を現場と本社の営業線の保守管理部門で過ごし、現在は当社の主要区間である難波～奈良間を結ぶ奈良線の連続立体交差化工事を現場事務所で担当しています。主な仕事内容としては、事業者である大阪府・東大阪市との協議、社内各部門および施工業者との設計・施工に関する調整などがあります。入社後2年間の「まち」の要素の1つである鉄道を維持管理する側から、都市計画事業であるこの工事に係われたことで「まちづくり」にさらに深く係わることができているのかなと思っています。

最後に、私が社会に出て改めて思ったのが、コミュニケーション、人とのつながりの重要性です。土木技師はご存知のように Civil Engineer と表現されます。市民、世という大きな対象に受け入れられない技師はただの Engineer です。その技能・知識を披露してくれるよう求められるような人間としても認められるよう技能・知識とともに「人間として」を高めていきたいと思ひます。

